

# 海辺みまもり AI手助け



高浜町の若狭和田ビーチに離岸流や沖に向けた風を検知して水難事故を防ぐ「海辺のみまもりシステム」が導入され、1日から運用が始まった。リアルタイムで送られる海面の画像や風の状況を人工知能(AI)が分析し、危ない海域などをラ

イフセーバーや海水浴客らのスマートフォン、腕時計型端末、救護所のモニターに通知する。人の目で認識が難しい海の危険を把握することで、海水浴客を安全な所に誘導し、事故が発生しても迅速な救助が可能になる。(鈴木隆一)

## 高浜・若狭和田ビーチ システム運用始まる

### 迅速な誘導や救助可能に

システムは日本ライフセービング協会と日本財団が中央大学の協力で開発し、普及を推進している。同町は昨年六月に設置の打診を受けた。すでに稼働している千葉県御宿中央海水浴場、宮崎県の青島海水浴場に続いて全国三カ所目の運用になる。

岸から沖に向かう強い流れの離岸流については、遊泳区域全体を監視できるように電柱二本の上部にカメラ四台を設置。昨夏に収集を始めた海面画像のデータを解析して学習させたAIにより、発生を自動で検知。離岸流の発生エリアに人が入った場合は、ライフセーバーや監視員、

末が手渡された。同クラブの田直彦代表は「穏やかな海に見えるが、沖への風で流される人が多い。システムで危険が察知できれば注意喚起できるし、溺れている人の発見や救助も早くなる」と期待した。

日本ライフセービング協会の石川仁憲常務理事は「リスク管理が一番の事故防止策。システム普及に向けたモデルになってほしい」と話した。

若狭和田ビーチは、水質や安全性などが優れたビーチを認定する国際環境認証「ブルーフラッグ」を取得しており、毎年十二、十三万人が訪れている。昨夏は新型コロナウィルスの影響で海開きしなかったが、今年七月十日から八月二十二日まで海水浴場を開設する予定。

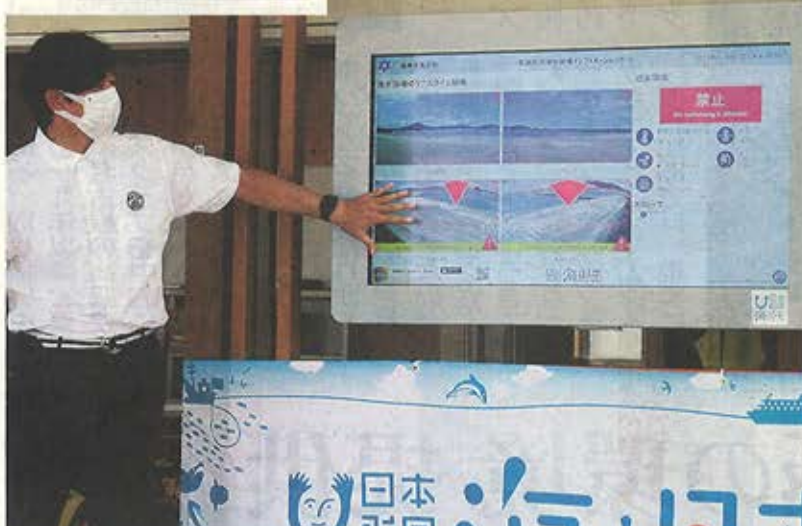
のスマホなどに知らせる。

若狭和田ビーチでは風が原因で沖へと流される事故も多かった。風速や風力の測定機も取り付け、どの程度の風速でアラートを通知するかは、運用しながら調整していく。

いずれも解析した海の状況は海岸にある救護所のモニターに表示し、警戒が必要な場合もライフセーバーや監視員に通知する。一般客もスマホに専用アプリをダウンロードすることでシステムを利用できる。

同日、同ビーチでシステムの贈呈式があり、管理運用する若狭和田ライフセービングクラブなどに専用スマホや腕時計型端

③海辺のみまもりシステムの運用が始まった若狭和田ビーチ電柱(左端)に取り付けたカメラで離岸流の発生を検知する



④離岸流の発生などを表示する救護所のモニター

⑤海辺のみまもりシステムの贈呈式

⑥いずれも高浜町の若狭和田ビーチで